

## 防災通信 No.31

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらおよせください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

# 住宅用火災警報器

最近、消防署の方から住宅用火災警報器の案内をよく聞きます。そこで少し調べてみました。

住宅用火災警報器は火災の発生を早期に発見し、逃げ遅れを防ぐことができる重要な機器です。

設置義務化から10年以上が経過しており、**電池切れ等により、火災時に正常に作動しない事例が多数あるようです。**

いざという時に正常に作動するよう日頃から点検を行い、異常があった警報器は新しいものに取り換えましょう。

## 【住宅用火災警報器とは？】

火災が発生した時は、目で煙や炎を見たり、鼻で焦げ臭いにおいを感じたり、耳でぱちぱちという音を聞いたり・・・と五感によって気づくことがほとんどだと思います。しかし、それだけでは、就寝中や仕切られた部屋などで物事に集中している時などには、火災に気づくのが遅れてしまいます。その時に火災を知らせてくれる重要な機器です。

## 【代表的な住宅用火災警報器】

〈煙式（光電式）〉 寝室・階段室・台所など

煙が住宅用火災警報器に入ると音や音声で火災の発生を知らせます。消防法令で寝室や階段室に設置が義務付けられています。

〈熱式（定温式）〉 台所・車庫など

住宅用火災警報器の周辺温度が一定の温度に達すると音や音声で火災の発生を知らせます。台所や車庫などで、大量の煙や湯気が対流する場所等に適しています。

なお、電源については、電池を使うタイプや、家庭用電源を使いコンセントへ差し込むタイプがあります。また、天井に設置するタイプと壁掛けタイプがあります。

## 〈補助警報装置〉

高齢者の方、目や耳の不自由な方には、音や光の出る補助警報装置の増設をおすすめします。

## 【住宅用火災警報器注意点】

〈電池切れに注意！〉

住宅用火災警報器は電池が切れると作動しなくなります。定期的に点検ボタンを押すなどして作動確



認を行いましょう。電池が切れそうになった際や故障の際に音や光で知らせてくれる機種もあります。

〈定期的に掃除を！〉

ほこりが入ると誤作動を起こす場合があります。定期的な掃除を行いましょう。掃除方法は機種によって違いますので取扱説明書をご確認ください。



近年の住宅火災による死者（放火自殺等を除く）の発生状況を経過別に見ると、逃げ遅れが最も多く全体の約6割を占め就寝時間帯に多くなっています。このため、必要最小限で効果の高いと考えられる場所として、寝室に設置することとされました。

## 交換の目安は10年



【住宅防火 命を守る 10のポイント】

〈4つの習慣〉

- ① 寝たばこは絶対にしない、させない。
- ② ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
- ③ こんろを使うときは火のそばを離れない。
- ④ コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く。

〈6つの対策〉

- ① 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- ② 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- ③ 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- ④ 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- ⑤ お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- ⑥ 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。